

## 実体経済の動向

### ◇出荷は3か月連続の増加

(生産—前月に引き続き増加)

4月の鉱工業生産(速報、季節調整済み、前月比)は、+0.5%と前月(+1.4%)に引き続き増加した(前年同月比-14.8%)。これは、鉄鋼(高炉)、機械等一部業種で減産となったものの、その他多くの業種では、在庫調整の進捗、出荷の持直し傾向を背景に、減産を緩和する動きがしだいに広がっているためである。

財別にみると、一般資本財が3か月ぶりに減少となったほかは各財とも軒並み増加となった。とくに耐久消費財は、メーカー製品在庫の調整がほぼ一巡したカラーテレビ、ラジオ、自動車等の生産増を中心に大幅増加に転じたほか、非耐久消費財(メリヤス下着、服類等)、建設資材(条鋼類、アルミサッシ、コンクリートパイル等)も前月に引き続き増加した。また生産財も、製品在庫調整の進捗から需要業界の生産回復傾向に伴い糸、非鉄中間製品、紙・パルプ、汎用樹脂等で減産緩和の動きがみられはじめたため、49年2月以来、14

か月ぶりに増加に転じた。

なお、製造工業生産予測指数(季節調整済み、前月比)によれば、5月+3.4%、6月+0.1%と引き続き増加が見込まれている。

(出荷—3か月連続の増加)

4月の鉱工業出荷(速報、季節調整済み、前月比)は、+3.1%(フレの大きい船舶を除くと+0.7%)と3か月連続の増加となった。これは、船舶の著増に加えて、流通、ユーザー段階における在庫補充買いが続いているうえ、財政、住宅関連を中心に末端実需もゆるやかながら持直し傾向にあるためである。

財別にみると、非耐久消費財が、繊維製品を中心に4か月連続の増加となり、建設資材(アルミサッシ、アルミドア、コンクリートパイル等)も、ユーザー・流通段階の在庫調整一巡や、公共投資の増加、民間住宅投資の回復傾向を映じてかなりの増加となった。また生産財も需要業界の減産緩和傾向から、49年1月以来15か月ぶりに増加に転じた。この間、耐久消費財は、テレビ、ラジオ、自動車等は増加したものの、エアコン(セパレート型)、扇風機等夏物家電商品が、天候不順やベア交渉の遅れなどをながめた流通段階の慎重な仕

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	49年				50年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
鉱工業	129.5	124.9	118.4	108.9	108.2	109.7	110.2
指 数							
前期(月)比	-2.1	-3.6	-5.2	-8.0	-0.6	1.4	0.5
前年同期(月)比	1.3	-4.7	-12.4	-17.7	-18.8	-16.1	-14.8
投資財	-0.6	-2.6	-5.6	-6.3	2.6	4.2	-2.9
資本財	1.7	-1.2	-3.8	-6.1	2.6	5.0	-4.2
同(輸送機械を除く)	5.9	-3.7	-6.0	-8.1	6.3	8.0	-5.7
輸送機械	-5.7	3.1	2.8	3.0	-6.4	0.2	-
建設資材	-6.0	-5.7	-10.7	-8.2	2.7	0.2	3.9
消費財	-1.4	-1.6	-1.6	-8.0	-4.9	0	5.0
耐久消費財	-5.1	-0.8	-1.7	-12.2	-8.6	-2.2	6.1
非耐久消費財	1.6	-2.6	-1.1	-4.6	-1.5	1.2	2.7
生産財	-4.0	-5.5	-7.2	-9.3	-1.4	-1.5	3.3

(注) 1. 通産省調べ、50年4月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

### 鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	49年				50年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
鉱工業	127.0	124.0	119.8	111.9	111.6	112.8	116.3
指 数							
前期(月)比	-3.0	-2.4	-3.4	-6.6	0.4	1.1	3.1
前年同期(月)比	-2.1	-6.2	-12.1	-14.2	-14.5	-8.8	-8.3
投資財	2.5	-4.4	-1.6	-6.7	4.8	0.2	4.9
資本財	6.3	-4.4	2.2	-8.9	5.0	-0.1	4.9
同(輸送機械を除く)	4.4	-2.8	-5.1	-3.9	11.4	5.7	-7.3
輸送機械	9.6	6.9	16.3	-17.0	-4.6	-11.0	-
建設資材	-4.6	-3.3	-10.0	-4.1	3.5	-1.0	7.0
消費財	-5.7	2.1	-1.3	-2.8	-1.3	1.1	-0.4
耐久消費財	-9.7	5.7	-1.8	-3.5	-2.0	-0.9	-1.9
非耐久消費財	-2.9	-0.5	-1.0	-2.0	0.2	1.3	1.4
生産財	-5.2	-3.3	-5.9	-9.2	-1.8	-0.2	4.1

(注) 1. 通産省調べ、50年4月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

入れ態度などから前月に引き続き減少した。

(製品在庫——引き続き減少)

4月の生産者製品在庫(速報、季節調整済み、前月比)は、-1.3%と年初来4か月連続の減少を記録し、この間の減少幅は-6.3%となった。また在庫率も136.7と引き続き低下した(前月142.8)。財別に在庫の動きをみると、一般資本財が出荷の減少を映じて増加したのを除けば各財とも軒並み減少となり、とくに消費財(カラーテレビ、ステレオセット、35mmカメラ、服類等)が4か月連続して減少したほか、生産財も、糸、紙・パルプ、非鉄中間製品等が出荷増を映じて減少したことから、49年1月以来15か月ぶりに減少となった。財別の在庫率をみても、耐久消費財を除いて軒並み低下し、とくに生産財は、49年1月以来15か月ぶりに低下した。

なお、日本銀行「主要企業短期経済観測」(5月調査)によれば、企業の製品在庫過剰感は依然強いものの、2月時点と比較すると過剰感は減退しており、先行き9月にかけても、売上げの回復とともに過剰感はさらに減退すると見込まれている。

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)末比増減(-)率・%)

	49年 (期別)			50年 (期別)			
	6月	9月	12月	3月	2月	3月	4月
鉱工業	148.2	159.7	169.7	161.1	163.9	161.1	159.0
指数							
前期(月)末比	16.0	7.8	6.3	-5.1	-2.5	-1.7	-1.3
前年同期(月)末比	29.4	36.0	45.1	26.1	36.4	26.1	16.1
製品在庫率	118.8	130.3	148.3	142.8	146.9	142.8	136.7
指							
投資財	19.4	12.1	2.4	-10.4	-5.1	-2.3	-0.8
資本財	23.3	13.8	1.3	-10.8	-5.4	-2.6	-0.1
同(輸送機械を除く)	19.8	15.7	1.0	-9.4	-5.0	-2.3	2.1
輸送機械	37.2	6.7	0.2	-14.2	-6.3	-1.2	-
建設資材	14.6	9.0	3.6	-8.8	-4.1	-1.1	-2.4
消費財	14.7	5.8	6.3	-11.2	-5.7	-4.4	-1.6
耐久消費財	21.5	7.5	6.2	-15.6	-6.1	-6.7	-1.1
非耐久消費財	9.7	4.2	5.5	-6.5	-5.6	-1.9	-3.6
生産財	15.5	7.1	7.0	4.3	2.0	1.8	-1.1

(注) 1. 通産省調べ、50年4月は速報。  
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

(設備投資——一般資本財出荷は前月著増の反動から減少)

4月の一般資本財出荷(速報、季節調整済み、前月比)は、-7.3%と3か月ぶりに減少となった。これは官公需関連品目(電話交換機、電話機)、大型機械(化学機械、非標準変圧機)が前月著増の反動から大幅に減少したことが主因である。この間、汎用機械(標準モーター、同変圧機)は流通在庫調整の一巡から回復傾向をたどっており、また土建機械(掘削機等)も底堅い動きを示している。

4月の機械受注額(船舶を除く民需、季節調整済み、前月比)は、製造業向け受注の低迷に加え、年度明けの特殊要因もあって、-28.3%と大幅に減少した。

業種別にみると、製造業向けは、鉄鋼が高炉関連機械の発注一服から大幅減少となったほか、化学、石油、機械等もそれぞれかなりの減少となったため、前月微増(+0.7%)のあと、-41.5%と大幅に減少した。また非製造業向け(船舶を除く)は、電力が増加したものの、運輸が前月著増の反動もあって大幅減少をみたため、-8.3%と前月(-8.9%)に引き続き減少した。この間官公庁向けは、防衛庁向けの著減などから-31.5%と3か月ぶりに減少した。

4月の建設工事受注額(速報、季節調整済み、

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	49年		50年		50年		
	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月	
民需	3,585	2,559	3,105	3,344	3,319	2,324	
( 3.0)	(-28.6)	( 21.3)	( 26.1)	(- 0.8)	(-30.0)		
同(船舶を除く)	3,453	2,488	3,105	3,344	3,319	2,138	
( 10.0)	(-27.9)	( 21.3)	( 26.1)	(- 0.8)	(-28.3)		
製造業	2,000	1,362	1,574	1,569	1,579	923	
( 9.7)	(-31.9)	( 15.5)	(- 0.3)	( 0.7)	(-41.5)		
非製造業	1,614	1,200	1,502	1,777	1,649	1,427	
(- 0.5)	(-25.6)	( 25.2)	( 64.4)	(- 7.3)	(-13.4)		
同(船舶を除く)	1,486	1,118	1,265	1,490	1,357	1,245	
( 14.1)	(-24.8)	( 13.1)	( 57.5)	(- 8.9)	(- 8.3)		

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

前月比)は、-22.0%とかなりの減少となった。民間分は、製造業向けが引き続き低迷しているうえ、年度明けの特殊要因もあって大幅減少したほか、官公庁分も統一地方選に伴う地方公共団体の予算執行の遅れを映じてかなりの減少となった。

前記「主要企業短期経済観測」によれば、主要企業の50年度の設備投資計画(工事ベース)は、製造業では前年度比+3.7%(資材価格上昇分等を調整した実質ベースでは同-6.7%)と引き続き慎重な計画となっているが、非製造業では電力、私鉄の増加を主因に同+12.3%(実質ベース同+1.4%)と増加が見込まれている。なお49年度実績は、製造業同+22.4%(実質ベース同-7.5%)、非製造業同-0.4%(実質ベース同-20.8%)となった。

#### ◇4月の小売商況は伸び悩み

全国百貨店売上高(速報、通産省調べ、季節調

整済み、前月比)は、1~3月にかなり回復したあと4月には-2.9%と減少した。これは、法人需要が不振を続けていること、月後半の天候不順もあって夏物商品が出遅れていることなどに加え、ベア妥結の遅れも響いているとみられる。品目別には、婦人物衣料、身のまわり品(くつ、ハンドバッグ等)が好調、小型カラーテレビも徐々に回復しているものの、家具、雑貨(宝石、貴金属)等高額商品は引き続き低調である。

なお、5月の乗用車新車登録台数(速報、軽自動車を除く、自販連調べ、季節調整済み、前月比)は、4月微増(+0.9%)のあと-17.7%とかなり減少したが、これには、各社ディーラーが6~7月に予定されている販売キャンペーンを前にして販売努力をやや手控えたことも響いている模様である(前年同月比+55.8%)。

### 卸売物価指数の推移

(単位・%)

	ウ ェ ィ ト	49年		50年			50年4月			5月	
		10~12 月平均	1~3 月平均	2月	3月	4月	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
総平均	100.0	1.2	-0.6	-0.5	-0.2	0.2	0.1	-0.1	0.3	-0.1	-0.1
食料品	13.4	7.7	2.4	1.3	0.4	0.4	0.4	-0.2	0.2	-0.1	-0.1
非食料農林産物	2.4	4.1	2.7	1.9	2.2	0.2	0.5	1.3	0.2	-0.3	0.1
繊維製品	7.8	3.1	0.1	0.2	0.7	1.0	0.6	0.1	1.2	0.5	-0.1
製材・木製品	3.8	4.4	0.9	-0.3	2.0	0.1	0.2	0.1	0.3	0.2	0.3
パルプ・紙・同製品	2.8	1.9	4.4	1.4	1.6	1.1	0.4	0	0.5	0	0.2
金属素材	1.9	10.4	8.5	2.6	3.6	2.3	1.0	0.1	0	-0.4	-0.6
鉄鋼	9.4	3.5	6.9	3.0	0.5	0.4	0.6	0	0.1	-0.2	-0.3
非鉄金属	4.2	9.5	4.6	-0.9	0	2.3	2.5	0.7	-0.3	1.1	-0.7
金属製品	3.8	1.2	2.3	1.8	0.7	0.3	0.2	0.1	-0.2	-0.1	0.1
電気機器	9.0	1.9	0.5	-0.3	0.4	0.1	0.1	-0.1	-0.1	0.2	0
輸送用機器	6.8	0.8	1.3	-0.3	0.5	1.6	0.4	0	1.7	-0.1	-0.1
一般・精密機器	10.8	1.2	0.3	-0.3	0.4	0.1	0	0	-0.1	0.1	0
化学製品	8.8	3.7	0.1	-0.3	0.4	0	0.1	0	-0.2	0.1	0.1
石油・石炭・同製品	4.6	6.8	1.4	-0.3	0.2	0.8	0.4	0	0.5	-0.1	-0.1
窯業製品	3.1	2.6	0.9	-1.2	0.5	0.1	-0.1	0	0.1	-0.1	0
雑品目	7.6	3.0	0.3	-0.4	0.4	1.1	-1.1	0	0.3	0	0
工業製品	85.5	0.7	-0.6	-0.6	-0.3	0.2	0.1	-0.1	0.2	0	0
大企業性製品	63.3	1.4	-0.8	-0.7	-0.1	0.3	0.1	0	0.2	0	-0.1
中小企業性製品	20.1	0.8	-0.8	-0.9	-0.4	-0.1	0.1	0	0.1	0.1	0.1
非工業製品	14.5	2.9	-0.5	-0.3	0.1	0.5	0.3	-0.3	0.4	-0.2	-0.3

(注) 日本銀行調べ。

## ◇商品市況は総じて小緩み

5月の商品市況は、化学品、紙、合繊等一部品目が流通段階の在庫補充買いなどを背景に、メーカー値上げの浸透もあって上伸、砂糖も値上げ認可により高騰したものの、これまでじり高商状にあった鋼板類が上げ一服となったほか、条鋼類が棒鋼を中心にかなり下落、天然糸も生糸をはじめとして引き緩み、非鉄(銅、鉛、亜鉛)、セメントは軟調裡に推移するなど、総じて小緩み商状を呈した。

こうした市況の小緩みは、①大勢としては減産体制堅持のなかであって、条鋼類では大幅な減産緩和が実施されたこと、②実需回復が本格化するにはなお時日を要するとして市況見直し気運が台頭し、先高見越しの仮需も後退したこと(鉄鋼、天然糸等)、③連休、ストの影響や梅雨入りを控え、さらにはユーザー、流通段階の在庫補充買いの一巡もあって荷動きが低調であったこと(鉄鋼、銅、木材)、④海外市況が軟化したこと(非鉄)、などが主因。

## (卸売物価——小幅下落)

卸売物価は、4月に前月比+0.2%と4ヵ月ぶりに微騰となったあと、5月に入ってから上、中旬とも前旬比-0.1%と小幅ながら再び下落した。

品目別にみると、上旬には、繊維製品、電気機器が上昇したものの、海外安から非鉄金属が反落したほか、鉄鋼、食料品も下落した。また中旬には、製材・木製品が続伸したほか、パルプ・紙・同製品等も微騰したものの、鉄鋼、非鉄金属、食料品が続落した。

(消費者物価——5月<東京都区部、速報>はかなりの上昇)

5月の消費者物価(東京都区部、速報)は、生鮮魚介、乳卵等は値下がりしたものの、果物(レモン等)、野菜の大幅上昇から季節商品が続騰したほか、夏物衣料を中心に被服が著伸、また住居、雑費も続伸したため、前月比+1.0%(前月同+2.5%)と引き続きかなりの上昇となった(前年同月比+14.4%)。また、季節商品を除く総合でも、前月比+0.8%(前年同月比+14.0%)の上昇。

## ◇総合収支は3ヵ月ぶりの赤字

4月の国際収支は、総合収支で412百万ドルの赤字と、2、3月ともかなりの黒字を計上したあと、3ヵ月ぶりに赤字となった。

これは、經常収支では貿易収支が引き続き高水準の黒字となり、投資収益の受取り増による貿易外収支の赤字幅縮小もあってほぼ前月並みの黒字となったものの、長期資本収支が延払信用の供与増、外債発行減などを映じて流出超に転じたうえ、短期資本収支も船舶前受金の引き落としを主因に大幅な流出超をみたため。

## 消費者物価指数の推移

(単位・%)

	ウエ イト	49年	50年	50年			最近月 の前年 同月比		
		10~12 月平均	1~3 月平均	3月	4月	5月			
東 京	総 合	100.0	4.2	1.5	1.0	2.5	* 1.0	* 14.4	
	(季節商品を除く)	( 91.3)	( 5.6)	( 1.1)	( 0.7)	( 2.4)	( 0.8)	( 14.0)	
	食 料	40.3	4.2	2.9	1.7	0.7	* 0.7	* 15.6	
	住 居	11.8	2.3	0.6	0.7	0.8	0.7	6.5	
	光 熱	3.7	10.9	2.2	- 0.1	0	0	32.0	
	被 服	12.4	1.0	0.8	1.0	0.9	3.3	3.9	
	雑 費	31.8	5.8	1.2	0.3	6.7	0.7	19.4	
	特 殊 分 類	農 水 畜 産 物	16.6	2.7	3.0	4.4	1.5	...	8.4
		工 業 製 品	43.6	2.3	0.8	0.4	0.2	...	8.2
		うち大企業製品	19.8	3.7	1.4	0.3	0.1	...	10.6
中小企業製品		23.8	1.3	0.4	0.4	0.3	...	6.7	
サ ー ビ ス	37.0	7.3	1.7	0.4	5.8	...	20.8		
全 国	総 合	100.0	4.4	1.5	1.0	2.2	...	13.6	
(季節商品を除く)	( 91.0)	( 5.6)	( 1.3)	( 0.7)	( 1.8)	...	( 14.8)		

(注) 1. 総理府統計局調べ。  
2. \*印は速報。

4月の貿易収支(国際収支ベース)を季節調整後で見ると、輸出は船舶引渡しの集中、自動車の持直しなどから前月比+5.4%とかなりの増加を示したものの、輸入が原油入着量の大幅落込みに加え、食料品(小麦、砂糖等)の減少などもあって-1.9%と減勢を持続、この結果、収支じりでは前月(黒字501百万ドル)を上回る821百万ドルの大幅黒字となった。

長期資本収支は、83百万ドルの流出超(前月89百万ドルの流入超)と小幅ながら3ヵ月ぶりに流出超に転じた。これは、本邦資本が借款、船舶引渡し増に伴う延払信用の供与増から前月(311百万ドルの流出超)を上回る流出超を示したうえ、外国資本も、対日証券投資はほぼ前月並みの高水準の買い越しが続いたものの、外債発行がやや減少をみたことから流入超幅を若干縮小したため。

また、短期資本収支は、船舶前受金が大幅に引き落とされたうえ、石油のシッパーズ・ユーザンスが入着減等を映じかなりの決済超となったことなどから、323百万ドルの大幅な流出超(前月同27百万ドル)となった。

金融勘定をみると、為銀の対外ポジションは、輸出手形の季節的な落込みを主因に月中539百万ドルの悪化を示し、月末負債超過額は13,427百万ドルとなった(前年同月末負債超8,832百万ドル)。

この間、外貨準備高は月中183百万ドル増加し、月末残高は14,335百万ドルとなった。

#### (輸出——船舶を中心に増加)

4月の輸出(国際収支ベース)は、季節調整後で前月比+5.4%(通関ベース同+3.4%)と前2ヵ月減少(前月同-6.7%、通関ベース同-2.0%)をみたあと、かなりの増加を示した。なお、原計数の前年同月比では+13.1%(前月同+18.5%)と、前年における輸出価格の急騰を映じて伸び率は若干低下。

品目別にみると、鉄鋼が引き続き減少したほか、化学製品も伸び悩んでいるが、船舶は既往最高の引渡しとなり、またこれまで不振を続けてきた自動車の持直しが目だつほか、繊維製品が前月

著減の反動もあって増加を示した。

通関輸出の前月比伸び率が価格と数量に分けてみると、輸出数量(季節調整後)は、鉄鋼が引き続き落込みを示し、弱電製品も前月増加の反動もあって減少したものの、船舶の引渡し集中に加え、自動車の船積み回復、繊維製品の持直しなどから、前月比+6.1%とかなりの増加となった。一方、輸出価格は、繊維製品が小幅の上昇を示した一方、船舶単価が引き続き若干低下した以外は、各主要品目とも目だつた動きはなく、全体としては前月比+0.1%とほぼ横ばいに推移した。

地域別にみると、先進国向け(季節調整後、前月比-3.7%)が米国(同-4.5%)を中心に不振を続け、共産圏向け(同-19.1%)も中国向けの落込みを主因にここにきて急減、前年水準をも下回ったが、中近東向け(同+9.2%)は引き続き好調に推移しており、また東南アジア向け(同+6.3%)にもようやく底入れ気配がうかがわれる。

先行指標である輸出信用状接受高(季節調整後、前月比)は、4月に+7.0%とかなりの増加をみた反動もあって、5月は-4.7%と再び減少した。品目別には繊維がやや持ち直したほか、鉄鋼も中国向けを中心に小幅の増加となったが、機械類が不振を続け、また化学肥料は前月増加の反動もあってかなりの減少となった。地域別には、中国を中心にアジア向けがまずまずの伸びを示したが、米国向けは依然不振を続け、西欧向けも伸び悩んでいる。

#### (輸入——引き続き停滞)

4月の輸入(国際収支ベース)は、季節調整後で前月比-1.9%(通関ベース同-2.4%)と、2月に急減したあと前月(同-0.2%、通関ベース同+1.1%)に引き続き小幅の減少をみた。原計数の前年同月比でも-9.7%(前月同-7.7%)とさらに落込み幅を拡大した。

品目別(通関ベース)にみると、鉄鉱石、木材等がやや増加したものの、鉱物性燃料(原油、石炭)が前月急増の反動もあって大幅な落込みを示し、食料品(小麦、砂糖)、繊維原料(羊毛、綿花)等も

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	49 年		50 年	50 年			49年 4 月
	7～9 月	10～12月	1～3 月	2 月	3 月	4 月	
経 常 収 支	△ 134	1,133	△ 799	107	237	193	△ 778
貿易 収 支	1,517	2,616	812	605	789	645	△ 344
輸 出	14,683	16,231	12,961	4,358	4,987	4,739	4,190
輸 入	13,166	13,615	12,149	3,753	4,198	4,094	4,534
貿易 外 収 支	△ 1,595	△ 1,435	△ 1,552	△ 484	△ 538	△ 434	△ 427
移 転 収 支	△ 56	△ 48	△ 59	△ 14	△ 14	△ 18	△ 7
長期 資 本 収 支	△ 551	△ 723	133	242	89	△ 83	△ 166
本 邦 資 本	△ 750	△ 1,214	△ 702	△ 131	△ 311	△ 412	△ 189
外 国 資 本	199	491	835	373	400	329	23
基 礎 的 収 支	△ 685 (△ 1,467)	410 (△ 755)	△ 666 (△ 512)	349 (△ 566)	326 (△ 38)	110 (△ 286)	△ 944 (△ 779)
短期 資 本 収 支	467	302	65	9	△ 27	△ 323	74
誤 差 脱 漏	△ 383	252	△ 89	△ 104	△ 1	△ 199	93
総 合 収 支	△ 601	964	△ 690	254	298	△ 412	△ 777
金 融 勘 定	△ 601	964	△ 690	254	298	△ 412	△ 777
外 貨 準 備 増 減	△ 260	349	634	459	184	183	287
そ の 他	△ 341	615	△ 1,324	△ 205	114	△ 595	△ 1,064
外 貨 準 備 高	13,169	13,518	14,152	13,968	14,152	14,335	12,713
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 12,262	△ 11,591	△ 12,888	△ 13,006	△ 12,888	△ 13,427	△ 8,832

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するもの含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸 出	輸 入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
49 年 7～9 月	(+ 4,746 4.1)	(- 4,501 0.5)	245	(+ 4,873 6.1)	(+ 5,321 0.5)	(+ 3,596 6.2)	(+ 5,244 4.8)	(- 5,665 5.2)
10～12 月	(+ 5,009 5.6)	(+ 4,525 0.6)	484	(+ 5,133 5.3)	(+ 5,358 0.7)	(+ 3,712 3.2)	(+ 5,437 3.7)	(- 5,488 3.1)
50 年 1～3 月	(- 4,891 2.4)	(- 4,227 6.6)	663	(- 4,925 4.1)	(- 4,925 8.1)	(- 3,232 12.9)	(- 5,122 5.8)	(- 4,683 14.7)
50 年 1 月	(+ 5,262 6.9)	(+ 4,595 2.6)	667	(+ 5,285 6.4)	(+ 5,510 3.0)	(- 3,172 16.6)	(+ 5,550 5.9)	(- 4,837 9.6)
2 月	(- 4,869 7.5)	(- 4,047 11.9)	822	(- 4,793 9.3)	(- 4,607 16.4)	(+ 3,272 3.2)	(- 5,009 9.7)	(- 4,565 5.6)
3 月	(- 4,541 6.6)	(- 4,040 0.2)	501	(- 4,697 2.0)	(+ 4,658 1.1)	(- 3,251 0.7)	(- 4,806 4.0)	(+ 4,647 1.8)
4 月	( 4,786 5.4)	(- 3,965 1.9)	821	(+ 4,859 3.4)	(- 4,545 2.4)	(+ 3,478 7.0)	(+ 5,151 7.2)	(+ 4,727 1.7)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。  
 2. カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

## 通 関 輸 出 の 内 訳

(対前年同期(月)比増減(-)率・%)

	49 年		50 年		50 年		
	7～9月	10～12月	1～3月	輸出額	3 月	4 月	輸出額
食 料 品	- 2.0(- 7.8)	- 19.9(- 0.4)	- 18.7(- 4.0)	167	- 7.6( 40.7)	34.1( 6.2)	73
魚 介 類	- 7.8(-10.3)	- 27.4( 1.0)	- 25.8( 1.5)	111	- 18.6( 15.5)	- 8.0(-15.5)	32
織 維・同 製 品	30.6( 1.0)	6.1(-10.6)	- 9.9(- 7.0)	761	- 21.1(-17.2)	- 12.3( 10.5)	297
合 織 糸	61.2( 9.9)	2.6(-25.1)	- 18.8(-17.2)	98	- 32.1(-14.6)	- 27.6( 2.3)	33
綿 織 物	25.6(- 9.3)	14.0( 2.6)	4.6( 0.4)	50	- 11.4(- 2.2)	- 5.7( 7.4)	21
合 織 織 物	28.2( 0.1)	11.1(- 6.9)	- 7.9(- 7.1)	240	- 15.7(- 9.2)	- 1.6( 13.9)	105
化 学 製 品	124.3( 28.9)	99.6(- 1.5)	65.3( 3.3)	1,083	44.4( 8.1)	24.6(-11.9)	342
非 金 属 鉱 物 製 品	17.4(- 2.8)	11.9(- 1.6)	7.3( 2.2)	153	0.3(- 1.6)	9.6( 1.4)	60
金 属・同 製 品	120.6( 18.0)	113.4( 13.8)	63.1(- 6.6)	3,450	38.6(-10.8)	31.4(- 7.8)	1,105
鉄 鋼	118.8( 21.0)	121.4( 19.8)	74.2(- 5.6)	2,898	48.7(-13.7)	43.0(- 2.9)	914
機 械 機 器	35.0(- 3.4)	31.4( 6.1)	18.6(- 3.0)	6,580	14.6( 1.0)	8.7( 5.9)	2,595
(船舶を除く)	37.8( 3.2)	26.7(- 0.6)	13.8(- 1.0)	5,202	5.9(- 4.0)	7.9( 6.3)	1,890
事 務 用 機 器	- 9.9( 1.0)	- 19.6(- 6.6)	- 2.7(- 3.5)	154	4.9( 3.8)	4.5( 6.6)	59
テ レ ビ	17.7(- 3.8)	16.2(- 1.7)	- 7.3(- 8.0)	139	- 8.7( 37.6)	- 1.3(-14.5)	58
ラ ジ オ	9.6(- 4.6)	- 1.4(- 6.8)	- 7.5(- 2.1)	255	- 10.1( 5.0)	- 8.0( 0.3)	101
自 動 車	55.5( 8.2)	35.0(- 9.1)	14.1(- 1.1)	1,248	- 1.0(- 6.0)	12.8( 13.9)	485
二 輪 自 動 車	72.5( 23.8)	54.0(- 4.5)	12.7(-11.5)	347	- 0.9(-17.4)	-15.6(- 13.7)	90
船 舶	23.8(-17.1)	50.5( 25.9)	40.7(- 9.9)	1,377	70.0( 39.4)	11.2( 8.1)	705
光 学 機 器	37.8( 4.4)	22.3(- 2.3)	8.4( 0.8)	305	8.8( 9.3)	- 0.1(-10.6)	101
レ コ ー ダ ー	- 7.3(- 5.6)	- 15.8(-11.0)	- 20.0(- 2.7)	131	- 25.5( 2.5)	- 14.7( 8.5)	48
そ の 他	51.3( 9.5)	52.1( 7.9)	26.7(- 4.2)	1,008	25.4( 8.0)	15.5(- 5.3)	357
合計(船舶を除く)	59.2( 9.4)	48.7( 2.6)	26.8(- 2.0)	11,828	14.8(- 3.8)	13.8(- 0.8)	4,125

(注) カッコ内は季節調整済み前期(月)比(%) (センサス局法による)。

かなり減少した。

通関輸入額の前月比を数量と価格に分けてみると、輸入数量(季節調整後)は、木材、羊毛等が引き続き増加傾向にあるものの、原油が大幅な落込みを示し、石炭、食料品(小麦、砂糖等)もかなりの減少をみたため、-1.2%の減少となった。一方、輸入価格も、木材は上伸したものの、これまで急騰を続けてきた砂糖が反落、また小麦、繊維原料(羊毛、綿花)等も低下をみたため、-4.2%と4ヵ月ぶりに低下した。

地域別にみると、中国からの輸入(季節調整後、前月比+54.3%)が著伸をみたほかは、米国(同-4.0%)を中心とした先進地域(同-5.9%)、東南

アジア、中近東など発展途上地域(同-12.7%)とも不振を続けており、前年水準をもかなり下回っている。

5月の輸入承認・届出額(季節調整後、前月比)は4月+1.7%とやや増加したあと、5月は-4.8%と減少した。品目別には、金属原料(鉄鉱石、銅鉱石)、羊毛等がやや増加した反面、原油、砂糖等が伸び悩まないし減少を示した。

4月の輸入素原材料在庫率指数(45年=100)は、同消費(季節調整後、前月比)が-0.3%と小幅の減少を示したものの、同在庫も-0.6%と減少したため、144.4(前月比-0.3ポイント)と7ヵ月ぶりに低下した。

## 通 関 輸 入 の 内 訳

(対前年同期(月)比増減(-)率・%)

	49 年		50 年		50 年		
	7~9月	10~12月	1~3月	輸入額	3 月	4 月	輸入額
食 料 品	20.2(- 2.2)	20.5( 6.1)	25.6( 15.1)	2,242	23.9( 6.1)	7.7(-16.7)	718
肉 類	- 63.2(-27.8)	- 51.3( 5.8)	- 48.6( 2.7)	75	- 11.9(110.7)	25.6( 15.7)	52
魚 介 類	- 9.9(- 3.4)	- 10.2( 2.9)	- 4.4(- 0.5)	205	14.7( 22.8)	26.5( 6.4)	86
小 麦	62.6(- 5.6)	59.6( 7.0)	23.5( 2.7)	331	- 2.4( 1.4)	- 21.0(-11.3)	80
とうもろこし	36.9(-10.5)	27.2( 16.7)	6.6(- 9.4)	224	2.2( 1.5)	- 2.3( 4.9)	74
砂 糖	156.8( 45.2)	256.6( 43.9)	222.7( 2.4)	453	177.1( 55.5)	141.1(- 8.3)	159
原 燃 料	93.0( 6.4)	67.2( 2.6)	10.5(-11.2)	9,344	- 1.4( 5.1)	- 9.9(- 9.3)	2,969
羊 毛	- 61.0(- 8.4)	- 71.9(-29.4)	- 48.9( 44.8)	115	- 30.7( 26.5)	- 15.7(-17.3)	37
綿 花	86.9( 29.9)	33.3(-14.6)	- 2.7(-18.8)	255	- 21.5(- 5.8)	- 29.3(-13.6)	62
鉄 鉱 石	24.0( 8.7)	19.9( 3.0)	1.3(- 3.0)	540	4.4(- 1.9)	11.4( 7.9)	186
鉄 鋼 くず	43.8( 62.4)	80.3( 15.8)	78.6(-18.2)	137	- 16.6(-45.8)	- 31.2(-20.9)	22
非鉄金属鉱	13.0(-17.0)	3.1( 1.7)	- 26.0(-20.1)	468	- 35.8( 3.0)	- 30.2( 1.1)	148
大 豆	- 21.4(-19.2)	27.5( 38.6)	29.3( 32.9)	294	8.9(- 2.2)	- 19.4(-39.2)	70
木 材	13.5( 0.8)	- 26.1(-23.7)	- 36.9(-16.5)	576	- 38.6( 4.5)	- 23.2( 8.0)	229
石 炭	146.6( 62.1)	179.7( 26.1)	98.7(-19.0)	822	142.7( 30.8)	70.6(-15.5)	298
原 油	226.6( 6.9)	156.3( 5.0)	28.7(-10.1)	4,918	9.4( 4.9)	- 9.3(-15.1)	1,524
化 学 製 品	36.9(-11.5)	- 6.1(-13.6)	- 28.7(-14.4)	479	- 37.0(- 2.0)	- 32.8( 14.5)	176
機 械 機 器	20.7(- 5.7)	20.4( 7.9)	- 1.2(-10.1)	1,137	- 7.1(- 0.9)	- 12.9( 0.5)	379
航 空 機	- 18.7( -)	218.2( -)	- 28.0( -)	121	- 17.7( -)	- 57.6( -)	43
そ の 他	- 0.6(-15.3)	- 21.8(-12.7)	- 34.9(- 9.7)	1,217	- 39.6(- 6.8)	- 32.2( 8.1)	457
工 業 用 原 料	76.2( 3.7)	47.8(- 1.3)	2.1(-11.4)	10,337	- 8.2( 4.0)	- 14.2(- 6.8)	3,349
消 費 財	13.0(- 6.9)	12.6( 5.8)	10.4( 11.4)	2,973	8.8( 8.0)	- 2.1(-15.0)	980
一 般 消 費 財	8.8(-13.0)	- 17.9(-14.7)	- 27.9(- 3.4)	470	- 26.0( 3.7)	- 24.9( 1.3)	184
資 本 財	21.1(- 6.8)	19.8( 6.5)	- 3.9(-10.5)	1,019	- 11.9(- 9.1)	- 15.3( 3.9)	341

(注) カッコ内は季節調整済み前期(月)比(%) (センサス局法による)。